

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2015年5月10日）

チーム・オール弘前一行が弘前を出発したのは雨のぱらつく心配な天候の中でした。構成は、教員1名、学生11名、一般14名、その他(ボランティアセンター事務補佐員)1名の計27名。1名の当日欠席者がいましたが、当日駆けつけてくれた方も1名いらっしゃいました。今回は定期便として、野田村で行われる「ベアレンビアフェスタ IN 野田村 2015」でのキッズコーナーの運営補助および参加交流のボランティアを行いました。

道中、雨が降り続いていましたが、バスの中は明るい雰囲気になっていました。たくさんの荷物・・・ビールジョッキやひざかけ・お弁当など・・・を携えた賑やかな一般の方たちに、初参加の学生さん・市民の方も数名おられました。学生事務局も4名と万全の体制で、行きは新井さん、帰りは中村くんが司会進行してくれました。

花輪サービスエリアを出発した後、自己紹介を行いました。みなさん様々な思いを持って参加されているのだなあと改めて感心しました。



道の駅「おりつめ」での記念撮影

道の駅おりつめで記念撮影をしたころには、青空も顔を出し、何とかイベントは開催出来そうだなと、胸をなで下ろしました。

到着すると、野田村社会福祉協議会の大平さんが出迎えてくださり、プレゼントの県産ゴボウや、キッズコーナーの遊具を運ぶお手伝いをして下さいました。

前回のフェスタで、ビブスを着用したボランティアが飲食をしているのを見た他大学の先生から注意を受けたとの情報があり、今回は交流メインの人たちはビブスを外して参加することになりました。結果的に、会場の雰囲気に溶け込むように見え、この判断は正解だったと思われました。



子どもたちの到着を待ちわびる学生ボランティア

キッズコーナーには学生ボランティアがスタンバイし、子どもたちの到着を待ちわびていました。また、午前中から出店の呼び込みや販売のお手伝いをして下さった市民ボランティアの方もおられました。

小田桐は、野田村社会福祉協議会の大平さんのご配慮で、野田村内の活動場所を見学させていただけることとなりました。野田村役場周辺の、生涯学習センターや総合センターの部屋だけでなく、野田中学校仮設集会所や南浜コミュニティセンターへも足を運びました。仮設住宅や復興住宅の現状や沿岸の復旧の様子なども間近に見ることができ、被災地において震災はまだ終わっていないのだと痛感させられました。未だ仮設住宅で暮らす方々の多さや、不便な生活の中でも花を育て慈しむ人たちの心の強さ・穏やかさに静かな感動がこみ上げました。



道すがら、市民ボランティアの方たちが先月植えた桜の状態を見に行くところを通りかかりました。桜の木は弱ったりしているものもあったけれど、概ね生きていたということでしたが、やはり町の中で住民の皆さんの目につくようなところに植樹の方がよいという感想も聞かれました。来年度も植樹を続ける計画があるそうです。

午後になり、会場に戻ると満員のお客さんで、ビールや売店のブースは賑わっており、肌寒い天

候の中、ビールを片手に満面の笑顔の皆さんが印象的でした。売店も概ね完売の盛況だったようです。また、参加者の方から野田村議会議長の貳又正人さんから感謝の言葉をかけられたという伝言がありました。

フェスタ全体へ向けての課題として、イベントそのものに仮設住宅で生活する年配者が参加していないということが挙げられ、ビールを飲まなくても



会場に足を運んでもらえる工夫が必要だとの声も聞かれました。いつも顔を

メインステージでのコンサートと満員のお客さん

合わせる野田村の人達との交流ができなかったと残念な感想の方もいらしたようです。

キッズコーナーはチーム北リアスさんの準備したエアトランポリンに子どもたちの長蛇の列で、八戸高専のボランティアの方たちと一緒に、学生ボランティアの皆さんも子どもたちのお世話に追われていました。学生さんたちが、お昼ご飯を食べられたか心配でしたが、市民ボランティアの皆さんが学生さんに持参したお菓子やお弁当、売店の田楽やイカ焼き・太巻きなどをふるまってくれて、ちゃんとお腹いっぱいになったようでした。

帰りのバスは行きのバスよりも賑やかで、ひとりずつ感想を述べていくのを聞いていると、野田村への確かな熱い想いが伝わってくるのでした。楽しかったという声が多く聞かれたことも、嬉しいことでした。

今回も計画やエントリー受付からお世話になった、弘前市民参画センター・ボランティア支援センターの皆さん、当日もガイドを引き受けて下さった野田村社会福祉協議会の大平さん、休日をボランティアのために返上して下さった引率の平井先生、そして市民・学生ボランティア参加者の皆さん、ドライバーさんとバスガイドさんのご支援・ご協力により、滞りなく活動を進めることができました。併せて、感謝申し上げます。

(文責:ボランティアセンター事務補佐員 小田桐睦弥)